



佐賀県小・中学校学習状況調査の結果についてお知らせします。 あなたの学校の結果はいかがでしたか？

昨年12月に実施した令和3年度佐賀県小・中学校学習状況調査の結果概要は、以下のとおりです。

調査結果の概要

平均正答率が、県で設定した「到達基準」に達した教科は、18教科中13教科でした。「到達基準」に達していない教科は、小学校4年生国語と小学校4・5・6年生算数、中学校2年生社会でした。(小4国、小4・5・6算、中2社については次ページで解説しています。)

[各学年・教科の県平均正答率等]

○小学校

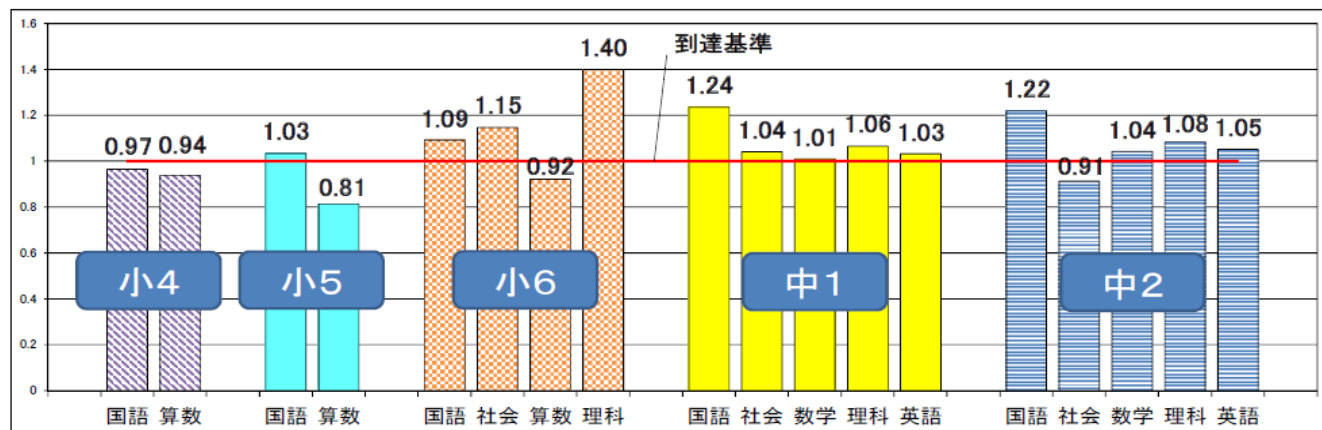
学年	小学校4年生		小学校5年生		小学校6年生			
	国語	算数	国語	算数	国語	社会	算数	理科
平均正答数	9.9/17問	7.1/15問	9.9/17問	6.3/15問	12.6/19問	12.3/19問	6.9/15問	15.1/19問
県平均正答率(%)	58.5	47.6	58.4	42.3	66.1	64.6	46.1	79.5
無解答率(%)	4.6	9.7	3.3	3.9	3.0	2.0	6.0	0.6
到達基準に対する割合	0.97	0.94	1.03	0.81	1.09	1.15	0.92	1.40
到達基準(%)	60.6	50.7	56.5	52.0	60.5	56.3	50.0	56.8



○中学校

学年	中学校1年生					中学校2年生				
	国語	社会	数学	理科	英語	国語	社会	数学	理科	英語
平均正答数	13.8/20問	10.6/20問	10.4/20問	11.5/20問	11.0/20問	13.3/20問	10.0/21問	10.3/20問	10.8/20問	10.5/20問
県平均正答率(%)	69.2	53.1	52.0	57.5	55.2	66.4	47.8	51.6	54.2	52.6
無解答率(%)	2.5	5.6	5.3	2.6	5.2	2.5	8.9	8.4	6.3	8.0
到達基準に対する割合	1.24	1.04	1.01	1.06	1.03	1.22	0.91	1.04	1.08	1.05
到達基準(%)	56.0	51.0	51.5	54.0	53.5	54.5	52.4	49.5	50.0	50.0

[各学年・教科の到達状況]



令和3年度 佐賀県小・中学校学習状況調査 Web 報告書について

佐賀県教育センターのホームページにおいて、県調査の分析結果を紹介しています。

この報告書では、各教科の成果と課題及び指導改善のポイントがまとめられています。是非御覧いただき、各学校における今後の学力向上へ向けた取組に御活用ください。

<https://www.saga-ed.jp/contents/gakujyou/>

今年度の県の結果では、これまでの課題の改善が図られているものもありました。しかし、身に付けた知識を活用して、複数の情報や資料をもとに説明する設問において継続して課題がみられます。各学校においても、今回の調査で明らかとなった課題等を踏まえ、共通理解を図り、今後の授業改善に向けた取組につなげていきましょう。以下に、小4国、小4・5・6算、中2社の内容について紹介します。

小学校4年生国語の結果について

【評価の観点別の状況】

※到達状況の「▼」は「要努力」の状況を表しています。

評価の観点	問題数	正答率	無解答率	到達基準	到達状況	到達基準との差
知識・技能	5	63.1	4.3	62.0		1.1
思考・判断・表現	12	56.6	4.7	60.0	▼	-3.4

評価の観点でみると、「思考・判断・表現」で「要努力」の状況にあることが分かります。また、内容・領域別にみると、「言語の特徴や使い方に関する事項」の正答率は53.1（「到達基準」63.3）、「読むこと」の正答率は33.7（「到達基準」57.5）で課題がみられました。

小学校4年生算数の結果について

【評価の観点別の状況】

※到達状況の「▼」は「要努力」の状況を表しています。

評価の観点	問題数	正答率	無解答率	到達基準	到達状況	到達基準との差
知識・技能	7	50.3	7.8	58.6	▼	-8.3
思考・判断・表現	8	45.2	11.4	43.8		1.4

評価の観点でみると、「知識・技能」で「要努力」の状況にあることが分かります。また、内容・領域別にみると、「数と計算」の正答率は39.5（「到達基準」51.4）、「測定・変化と関係」の正答率は48.1（「到達基準」60.0）で課題がみられました。

小学校5年生算数の結果について

【評価の観点別の状況】

※到達状況の「▼」は「要努力」の状況を表しています。

評価の観点	問題数	正答率	無解答率	到達基準	到達状況	到達基準との差
知識・技能	6	52.6	4.0	61.7	▼	-9.1
思考・判断・表現	9	35.4	3.9	45.6	▼	-10.2

評価の観点でみると、「知識・技能」と「思考・判断・表現」で「要努力」の状況にあることが分かります。また、内容・領域別にみると、「数と計算」の正答率は41.5（「到達基準」54.0）、「図形」の正答率は44.4（「到達基準」53.8）、「測定・変化と関係」の正答率は33.3（「到達基準」50.0）、「データの活用」の正答率は41.1（「到達基準」50.0）の全てで課題がみられました。



小学校6年生算数の結果について

【評価の観点別の状況】

※到達状況の「▼」は「要努力」の状況を表しています。

評価の観点	問題数	正答率	無解答率	到達基準	到達状況	到達基準との差
知識・技能	7	51.9	3.4	58.6	▼	-6.7
思考・判断・表現	8	41.0	8.3	42.5	▼	-1.5

評価の観点でみると、「知識・技能」と「思考・判断・表現」で「要努力」の状況にあることが分かります。また、内容・領域別にみると、「数と計算」の正答率は27.3（「到達基準」43.3）、「図形」の正答率は36.6（「到達基準」56.7）、「データの活用」の正答率は53.6（「到達基準」55.0）で課題がみられました。



中学校2年生社会の結果について

【評価の観点別の状況】

※到達状況の「▼」は「要努力」の状況を表しています。

評価の観点	問題数	正答率	無解答率	到達基準	到達状況	到達基準との差
知識・技能	16	52.0	6.3	57.5	▼	-5.5
思考・判断・表現	5	34.5	17.0	36.0	▼	-1.5

評価の観点でみると、「知識・技能」と「思考・判断・表現」で「要努力」の状況にあることが分かります。また、内容・領域別にみると、「日本の諸地域」の正答率は39.7（「到達基準」45.0）、「中世の日本」の正答率は34.7（「到達基準」46.7）、「近世の日本」の正答率は45.1（「到達基準」55.0）で課題がみられました。

令和3年度 第2回佐賀県学力向上対策検証・改善委員会 における主な意見

県教育委員会では、学力向上に係るPDCAサイクルの確立の要として、大学関係者、有識者、保護者代表者、市町教育委員会代表者、学校教育関係者で構成する「佐賀県学力向上対策検証・改善委員会」を設置して、全国調査や県調査の結果分析を通じた課題の抽出、指導方法等の検証・改善に向けた協議を行っています。令和4年2月10日に開催した第2回委員会における主な意見を紹介します。

- 知識・技能を習得させる際にも、**思考のプロセス**を意識した指導をしていくことが大切である。
- **「まとめ」「振り返り」を充実**させていくことが、学びを深めたり、学んだことを定着させたりすることにもつながるのではない。
- 単元（学習内容のまとめ）や題材等を通してメリハリをつけながら、「何を身に付けさせるのか」、「何をやるのか」など**各授業時間のねらいを明確**にしていくことが大切である。
- **家庭・地域との連携を充実**させるためにも、学力調査の結果や学校としてがんばっている取組などについて、学校だよりに掲載したり、PTAとの会議で話をしたりするなど、**情報発信**をもっとして欲しい。
- 授業改善を進めていくためにも、**教員集団の協働性**を高めていくことが大切である。

